白神（あきた）りんどう

SHIRAKAMI RINDOW

白神山地の麓で育った自慢のあきた白神りんどう

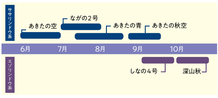
世界自然遺産に登録されている「白神山地」は、本州唯一のもの、ブナの原生林や手つかずの自然は、多くの人々を魅了し続けている。その麓に位置する藤里町と能代市で「あきた白神りんどう」は、豊かな土壌に根を深く伸ばし、白神の山を背景に空に向かってまっすぐに伸びていく。

手塩にかけて育てた私たちのあきた白神りんどう

「あきた白神りんどう」の収穫の最盛期は、夏。1日に約30,000本のペースで出荷されるほど。まだ日が昇り切っていない夏の朝に収穫を行い、朝露や雨を暖風機等で乾かし本ずつ丁寧に茎の長さを切りそろえていく。りんどう圃場では定植から収穫までほとんど機械を使えない。株が病気にならないようにハサミも使わずに手で収穫する。

丁寧に育て上げたりんどうでも、たとえ3cm曲がっても、花の数が少なくても、値段が変わる。そのため、出荷前にもひとつずつチェックを行う。

「秋を感じる花」とも言われるりんどうだが品種の開発も行われて学ぶ。6月中旬から10月下旬まで楽しめるようになった。鮮やかなブルーは盆花としても人気のためお盆前の時期は朝から晩まで作業を行っている。



※青系を中心に品種は30品種以上（ブルー系（深山秋含む）約9%、ピンク系（レッドワン含む）約6%、ホワイト約1%、パステル約4%）

咲き姿が違う品種

ここでは、2種類のりんどうをメインに育てている。葉の形が笹のように尖っていて、開花時に花びらがあまり開かない「ササリンドウ系」、葉が細く開花時に花弁の先端が大きく開き星形になる「エゾリンドウ系」だ。

「あきた白神りんどう」では、ササリンドウ系の品種には、あきたの空（ながの極早生）、ながの2号、あきたの青（しなの早生）、あきたの秋空（しなの3号）、エゾリンドウ系、しなの4号、深山秋をメインに出荷している。秋を知らせるりんどうとも言われるが、今では品種によって長い期間楽しめるようになった。また代表的な青色の花に加えピンクやグラデーションがかかった色の品種も栽培されている。

あきた白神りんどうを皆さんの元へ

米農家が主流であったこの土地では、平成20年に藤里町が農家へ呼びかけを行い、先進地の見学会を開催した事がきっかけとなり、翌年、3軒の農家が「やってみようか」とスタートした。今では13軒、栽培面積約4ヘクタールとなり、メンバーも増えていき、新たな品種に積極的に挑戦する農家や、秋田県種苗交換会で最高賞である「農林水産大臣賞」を受賞したメンバーもいる。

開始から13年経ったが、毎年勉強会を開催し、出荷時の梱包の仕方や、今年の天候や傾向を分析して話し合いをしながら作業をしている。私たちが日々研究し、丁寧に育てた「白神りんどう」を、自宅でも楽しんでもらえたら嬉しい。

りんどう出荷体系

市場ニーズにあわせた出荷をめざす作型構成

出荷最盛期	8月上旬（お盆需要向けにあわせて） 9月中旬（お彼岸需要向け）
採花期間	6月下旬から10月下旬
選別調整作業	草丈：90cm（6段）、80cm（5段）、70cm（4段）、65cm（3段）、55cm（3段）
等階級	優／曲がり
等階級	市場出荷を主体目的として、品質、規格、等階級、段ボールを統一し、年2回の開催する品質の目合わせ等を通して、品質均一な白神りんどう出荷を目指しています。
出荷先	秋田県内2市場、関東2市場、関西1市場

栽培地域：能代市、藤里町（秋田県）
問い合わせ：JAあきた白神藤里営農センター
秋田県山本郡藤里町藤琴字鳥谷場140
TEL 0185-79-1644